



霞



月詰



嵐



袖摺返



林崎其助重信先生を偲ぶ会



土魂会



立業前



信夫



行速



正座右前左



浮雲



鱗返



横雲

居合抜刀始祖 林崎夢想流祖 林崎其助重信 略伝 天文 11 年正月出羽稲岡在林崎に生まれる。幼名を民治丸といい、父浅野数馬重治、元足利將軍の家臣幕閣の要職にあった。由有り奥州に旅立ち稲岡城主最上豊前守の家臣となり文武に秀いで多いに活躍す。天文 16 年 11 月雪降る中、山形霞城主最上義守候の家臣坂上主膳の夜襲により絶命する。時に民治丸 6 才であった。弘治 2 年民治丸母子意を決し、林崎大明神に父 無念仇討宿願と千日の願を掛け修練続く満願の夜社前に於て仮眠する民治丸の夢枕に林崎大明神示現千変万化の法を具現、長柄の刀法に称有り。伝統遂に絶妙に達する居合抜刀の刀法を翻然自悟する。永禄 2 年吉月元服名を林崎其助重信と改める。永禄 4 年父の仇討本懐を京で遂げり。文禄 4 年 5 月 10 日より慶長 3 年 9 月 15 日まで 7 年間武州一ノ宮（今の大宮）に居住す。元和 2 年 2 月 28 日より翌年 7 月 20 日まで武州川越の坊高松勘兵衛の所に滞在し東奥に旅立つ。途中に於て病死す。時に 73 歳。享保元年 7 月 30 日命没後 98 年目川越蓮馨寺にて仮葬儀をしていたものを大々的に法要を営み墓碑を建立する。高松勘兵衛信勝の曾孫（一の宮流興幸四郎権主）

平成二十五年十一月三日の撮影。蓮馨寺に於て十一月三日に行われた演武会。大宮町、居合道場、鈴木らと、倉田、一、藤野、三、撮影